

証券コード：4651

2025年 3 月期 通期決算説明資料

株式会社サニックスホールディングス
2025年 5 月15日

1. 2025年3月期 決算概況	P. 2
2. 2025年3月期 セグメント別概況	
①住環境領域（HS・ES・SE）	P. 10
②エネルギー領域（PV・新電力）	P. 15
③資源循環領域（環境資源）	P. 20
3. トピックス	P. 27
4. 2026年3月期 通期連結業績見通し	P. 36
5. 参考資料	P. 44

2025年3月期 決算概況

資源循環領域における発電事業の売電単価が大きく低下したことで対前期では減収・減益となったものの、対計画では、発電事業における小売の販売価格を高く維持できたことなどから利益達成

(百万円)	2023/3期 実績	2024/3期 実績	2025/3期 実績	前期差異	前期比	2025/3期 計画	計画比
売上高	46,277	47,167	45,352	△ 1,815	96.2%	46,246	98.1%
売上総利益	16,208	18,102	16,606	△ 1,496	91.7%	16,001	103.8%
営業利益	1,785	3,744	2,227	△ 1,516	59.5%	1,715	129.8%
経常利益	1,552	3,466	1,950	△ 1,515	56.3%	1,440	135.4%
最終利益	1,332	2,697	1,483	△ 1,213	55.0%	1,093	135.6%

2025年3月期 セグメント別概況

住環境領域

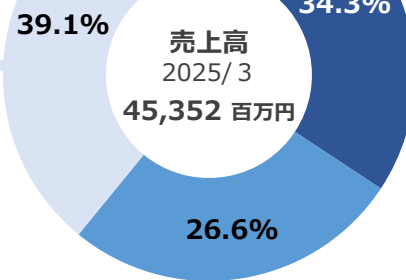
戸建・集合住宅等のトータルメンテナンスに関する事業

- HS(ホーム・サニテーション)事業
- ES(エスタブリッシュメント・サニテーション)事業
- SE(ソーラー・エンジニアリング)事業

資源循環領域

廃プラスチックの再資源化や廃液の浄化・燃料製造等に関する事業

- プラスチック事業
- 廃液処理事業
- 発電事業
- 埋立事業

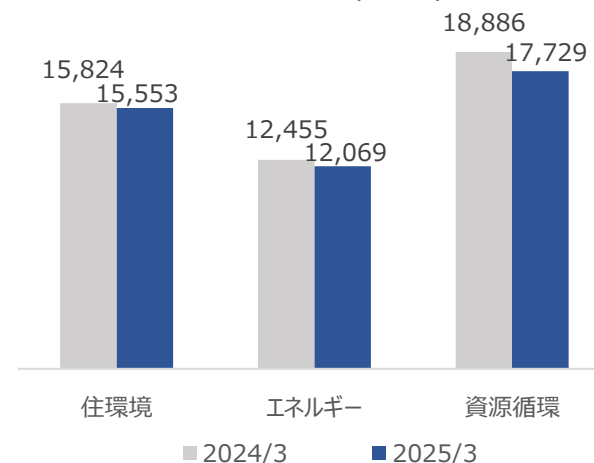


エネルギー領域

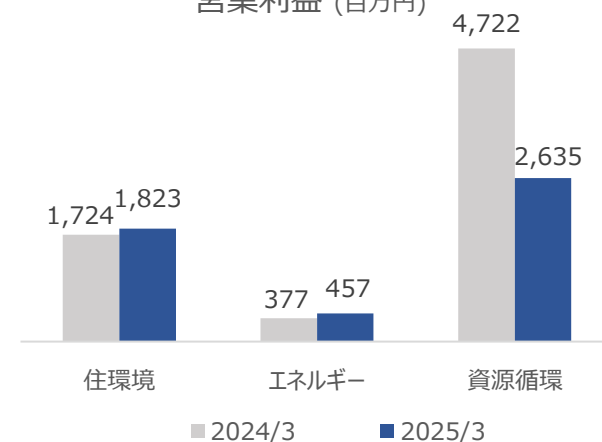
企業・法人向け太陽光発電システム等の販売、施工、メンテナンス等に関する事業

- PV(法人向け太陽光発電)事業
- 新電力事業

売上高 (百万円)



営業利益 (百万円)

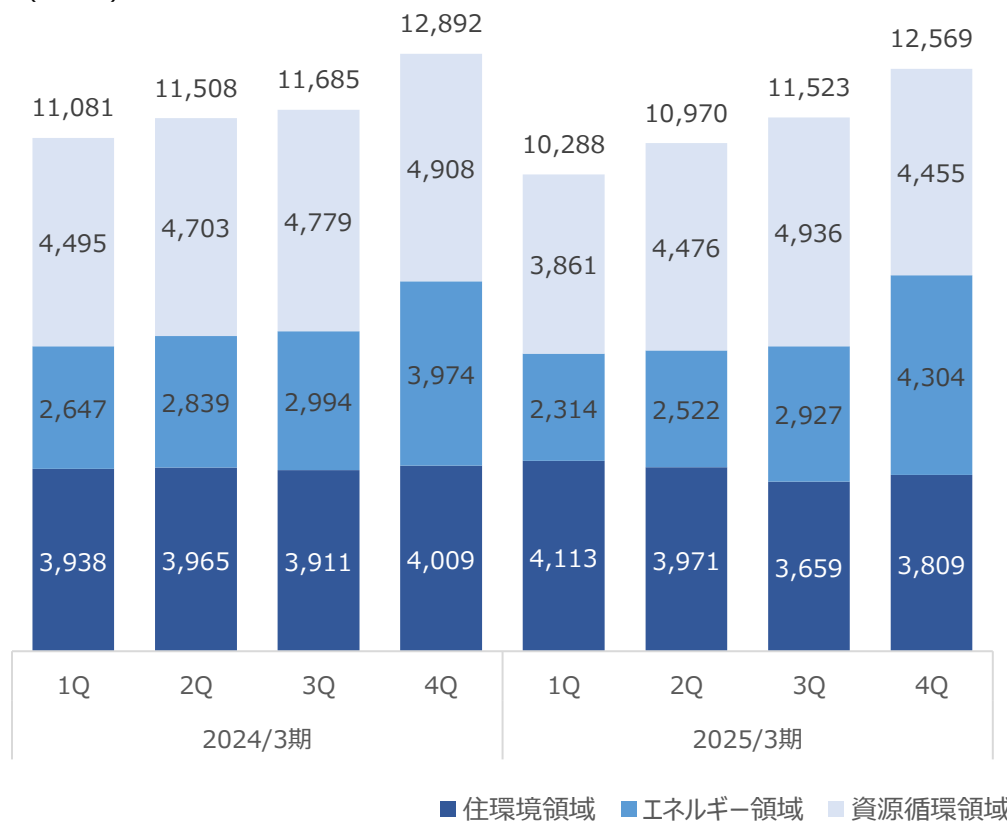


2025年3月期 セグメント別概況

住環境領域	売上高 営業利益	15,553 百万円 1,823 百万円	対前期比 (△1.7%) (+5.8%)	✓一部の販売価格を改定したことに加えて、 安定した収益基盤を維持できたことにより増益
エネルギー領域	売上高 営業利益	12,069 百万円 457 百万円	(△3.1%) (+21.3%)	✓PV事業は、案件ごとの採算管理の徹底及び材料 コストの低減により粗利率が改善し増益 ✓新電力事業は、継続して利益確保
資源循環領域	売上高 営業利益	17,729 百万円 2,635 百万円	(△6.1%) (△44.2%)	✓発電事業の売電単価の低下及び タービン・ボイラー更新にともなう稼働日数の減少 ✓プラスチック・廃液・埋立事業は堅調に推移
本社費用	営業利益	△2,689 百万円	(－%) +390百万円	✓HD体制移行による社内整備等の費用が増加 したものの、その他費用の削減を実施し、本社費用 を圧縮

2025年3月期 売上高（四半期推移）

(百万円)



対前期比

△3.8%減

住環境領域 △1.7%減

エネルギー領域 △3.1%減

資源循環領域 △6.1%減

対計画比

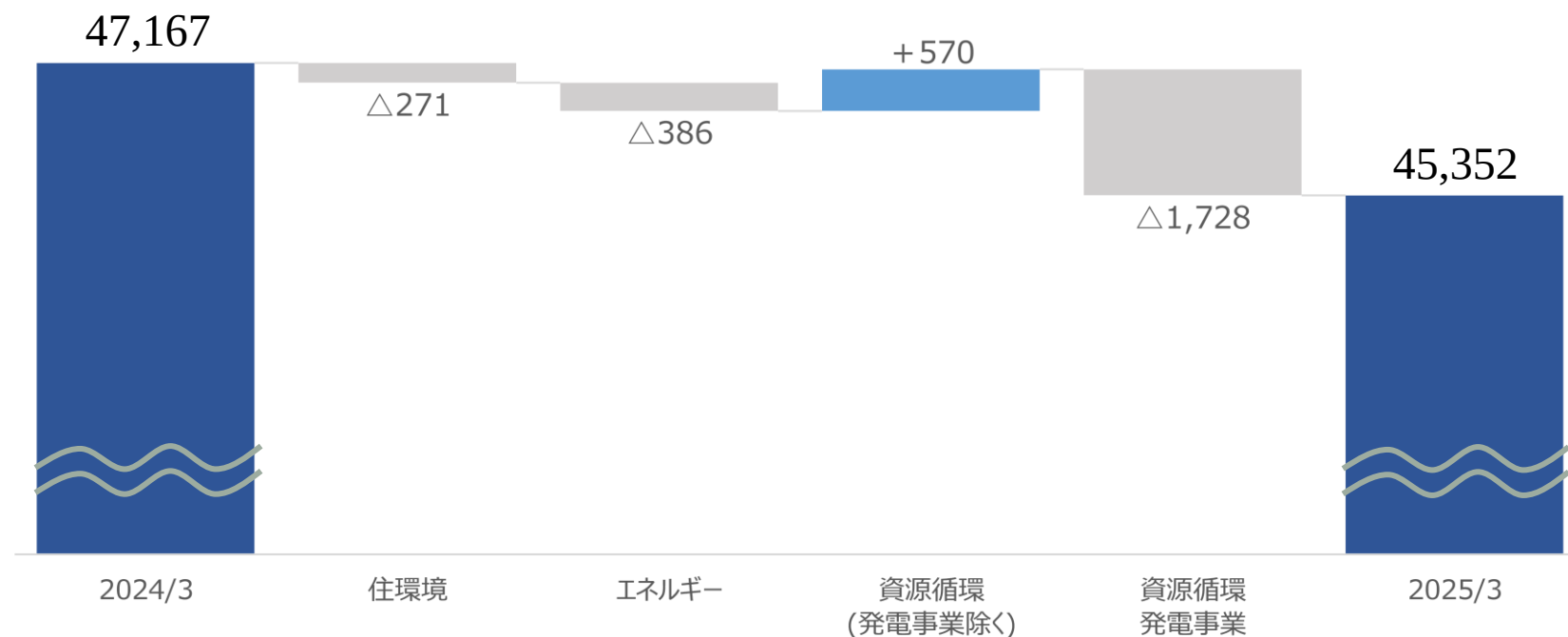
△1.9%減

2025年3月期 売上高 対前期増減分析

売上高

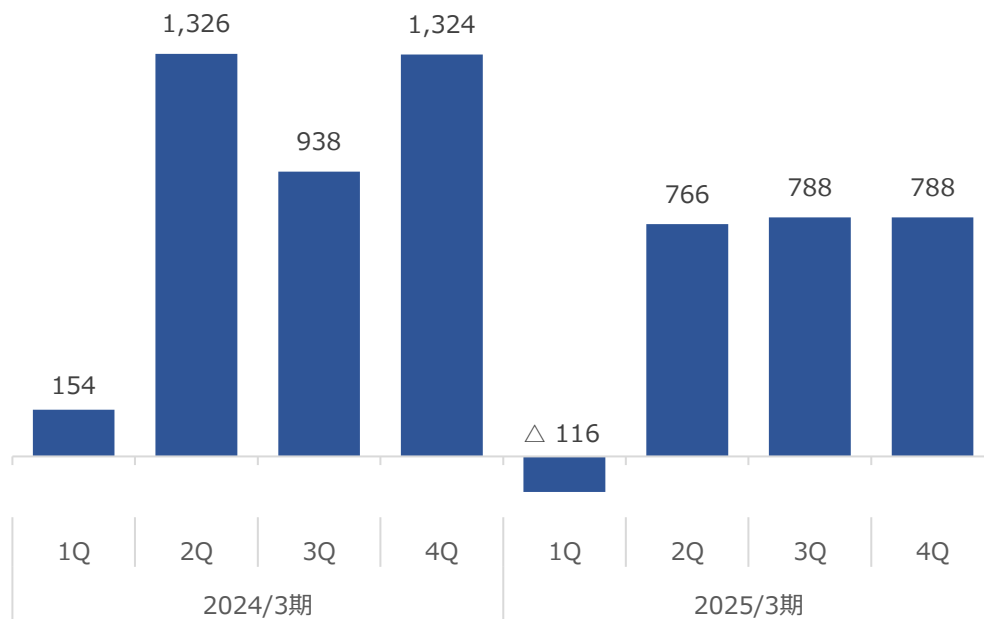
対前期 $\triangle$ 1,815 百万円

(百万円)



2025年3月期 営業利益（四半期推移）

(百万円)



対前期比

△40.5%減

住環境領域 +5.8%増

エネルギー領域 +21.3%増

資源循環領域 △44.2%減

対計画比

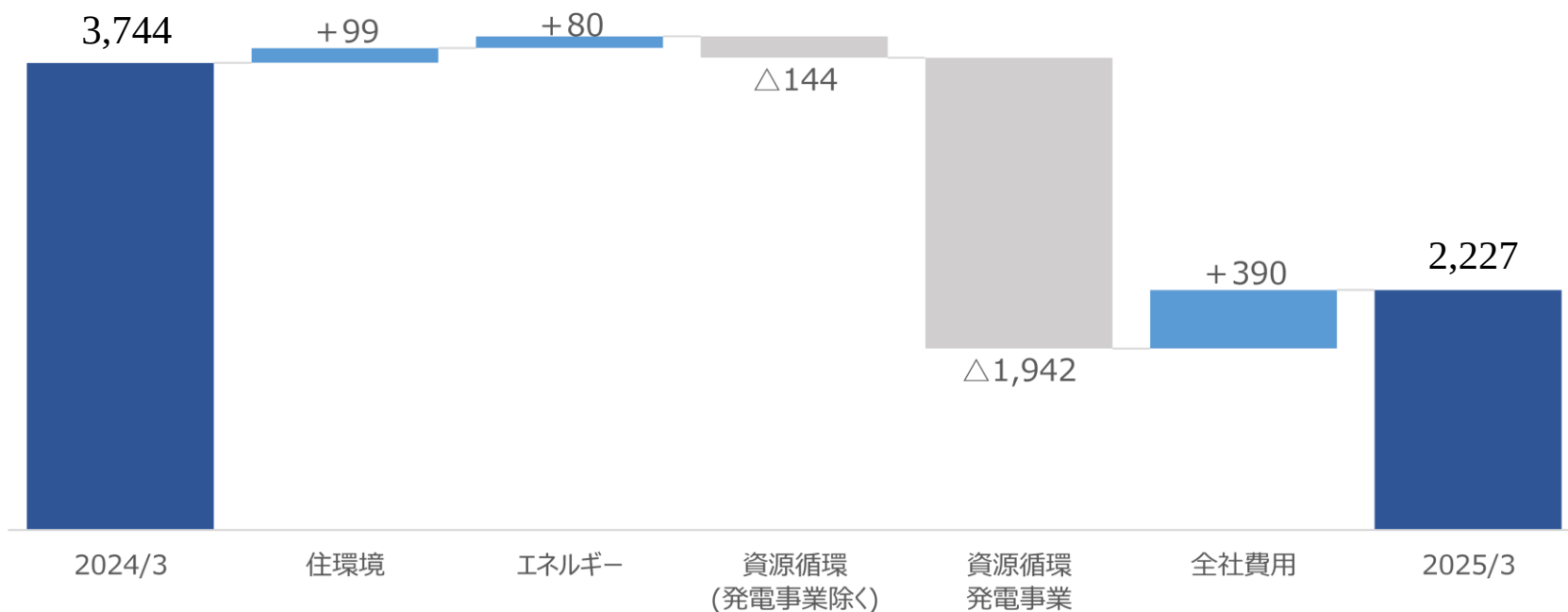
+29.8%増

2025年3月期 営業利益 対前期増減分析

営業利益

対前年同期 Δ 1,516 百万円

(百万円)



1. 2025年3月期 決算概況	P. 2
2. 2025年3月期 セグメント別概況	
①住環境領域（HS・ES・SE）	P. 10
②エネルギー領域（PV・新電力）	P. 15
③資源循環領域（環境資源）	P. 20
3. トピックス	P. 27
4. 2026年3月期 通期連結業績見通し	P. 36
5. 参考資料	P. 44



住環境領域

快適な住環境を次世代へつなぐ

- 戸建住宅向けメンテナンス
- 住宅用太陽光発電設置
- 集合住宅向けメンテナンス
- 衛生管理

サニックスでは、“予防医学（＝未然に防ぐという思想）”の見地から、戸建・集合住宅等のトータルメンテナンスを推進。さらには、太陽光発電やリフォーム、都市空間の衛生管理まで、世代を超えて受け継がれる、快適で衛生的な暮らしを実現します。

HS(ホーム・サニテーション)事業

シロアリの習性を熟知したスタッフが、予防から駆除まで、適切に対処。豊富な経験と実績で培われた専門技術とノウハウ、万全のアフターサービスにより、大切なマイホームをシロアリの被害から守ります。



白蟻防除施工



床下・天井裏換気システム

ES(エスタブリッシュメント・サニテーション)事業

給排水設備メンテナンスの効率的一元管理を実践。主力商品である防錆装置などにより、配管内のサビの発生・進行抑制による配管の長寿命化や、スケール・油汚れの除去・付着抑制によるトラブルの解決を図ります。



ビデオスコープによる水道管検査



害虫防除施工

SE(ソーラー・エンジニアリング)事業

戸建て住宅向け太陽光発電の普及を目指して、環境にも家計にも優しい生活を実現します。また、自家消費型太陽光発電のニーズが高まるなか、蓄電池の導入による電気の柔軟な使い方をご提案しています。

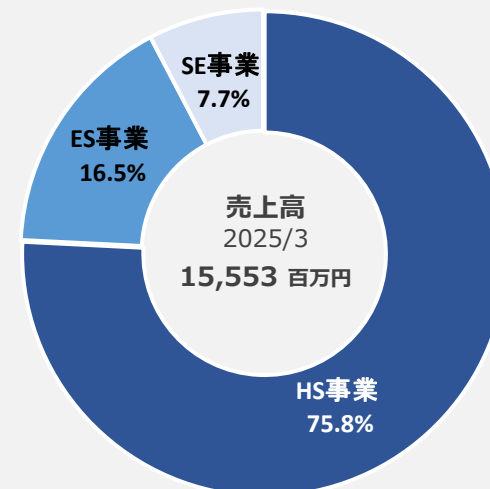


住宅用太陽光発電システム



蓄電池

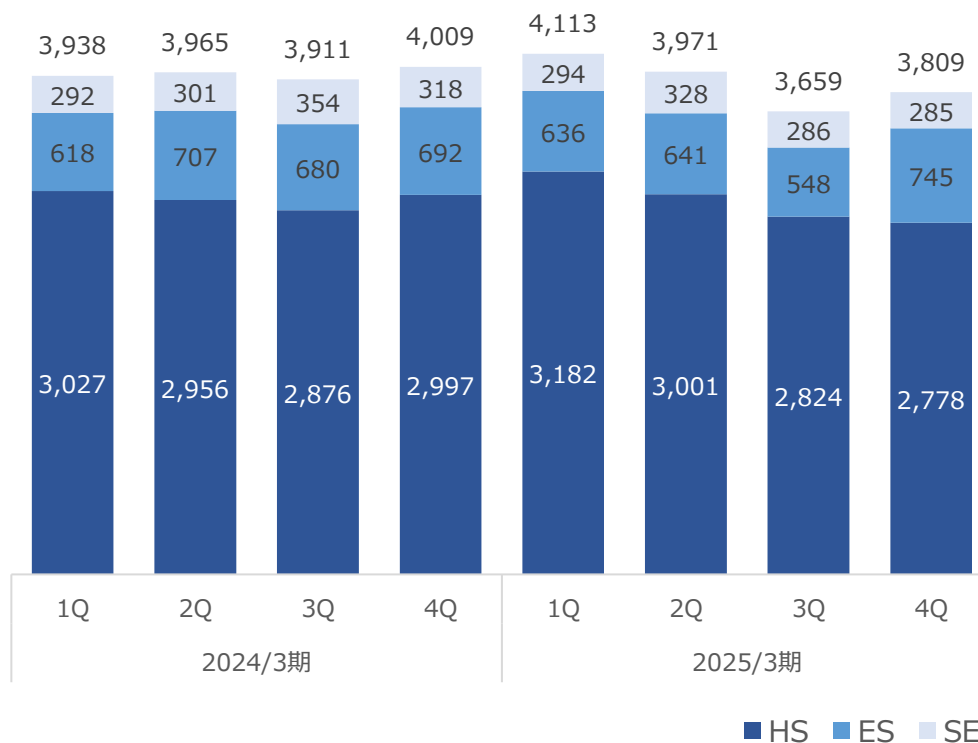
住環境領域 売上高構成比



住環境領域 | 売上高

法人営業体制強化に加えて、営業力と顧客基盤を生かした既存事業の拡大によりHS事業は前期並みにて推移したものの、ES・SE事業における人員の配置転換等により減収

(百万円)



対前期比

△ **1.7%減**

HS事業 △ **0.6%減**

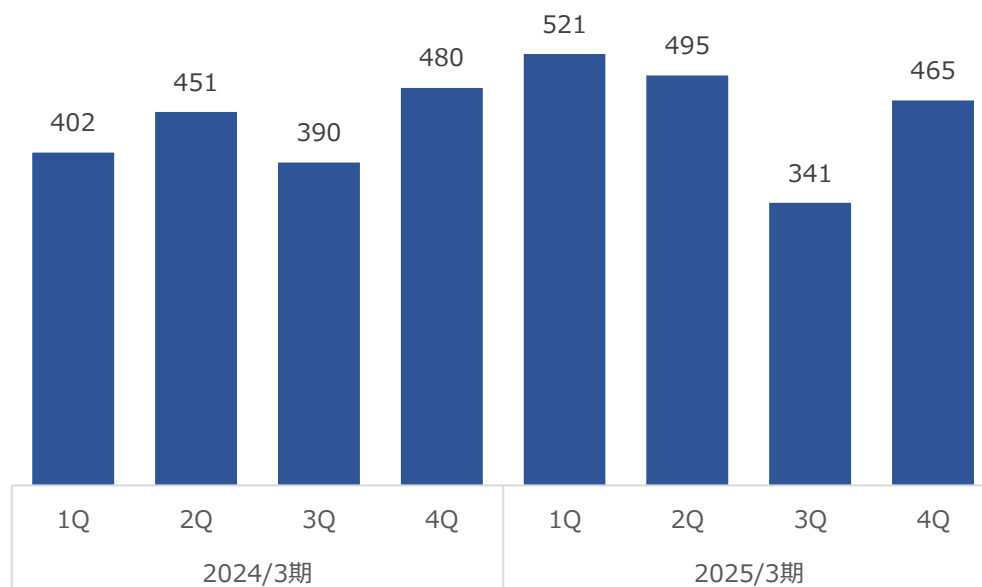
ES事業 △ **4.8%減**

SE事業 △ **5.8%減**

住環境領域 | 営業利益

一部の販売価格を改定したことに加えて、安定した収益基盤を維持できたことにより増益

(百万円)

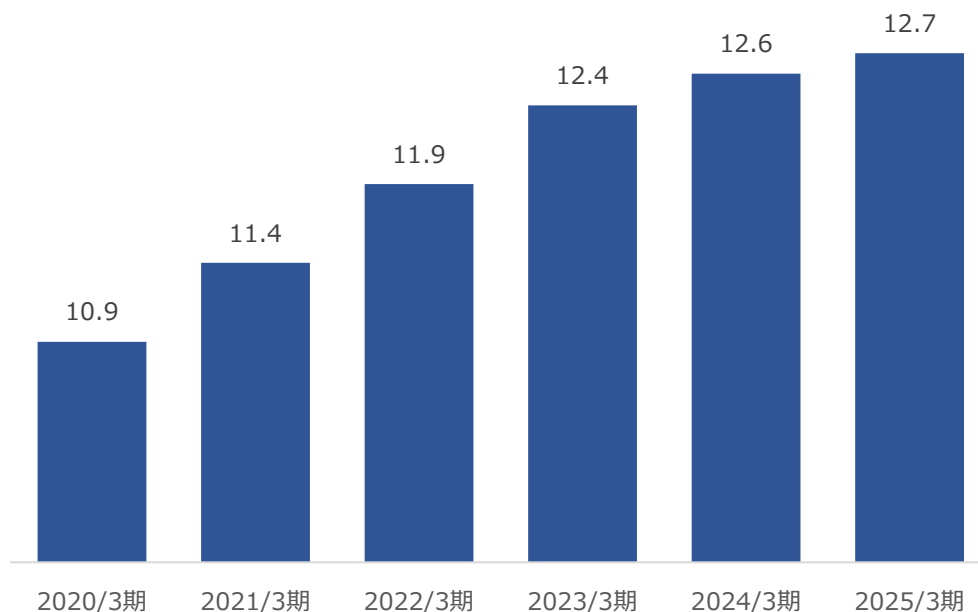


対前期比
+5.8%増

住環境領域 | 顧客件数

2020年3月期以降、顧客基盤は約2万件増加

(万件)



強固な顧客基盤

12.7万件

(2025年3月末現在)

※顧客件数は、HS事業の保証契約継続中の顧客数を記載

1. 2025年3月期 決算概況	P. 2
2. 2025年3月期 セグメント別概況	
①住環境領域（HS・ES・SE）	P. 10
②エネルギー領域（PV・新電力）	P. 15
③資源循環領域（環境資源）	P. 20
3. トピックス	P. 27
4. 2026年3月期 通期連結業績見通し	P. 36
5. 参考資料	P. 44



エネルギー領域

環境負荷の低いエネルギーを普及拡大させる

- 法人向け自家消費太陽光発電設置
- 既設太陽光発電メンテナンス
- エネルギー事業者向け太陽光電源開発
- 電力の小売販売

サニックスでは、お客様のニーズに合わせて、最適な太陽光発電システムのかたちをご提案、導入からメンテナンスまで、環境経営の推進をサポートするとともに、再生可能エネルギーの普及拡大を図ります。

PV事業

工場の屋根やビルの屋上等の有効利用を促進。法人向け自家消費型・第三者所有型太陽光発電システムを中心に、太陽光発電によるコスト（電気代）削減、災害対策、環境経営をサポート。ご提案から設計、施工、アフターメンテナンスまで、トータルに提供します。



自家消費型/第三者所有型



非FIT電源開発

【第三者所有型(PPAモデル)の仕組み】

PPA事業者が、お客様の敷地や屋根に、PPA事業者の費用負担により太陽光発電を設置(PPA事業者が所有・維持管理)。この太陽光発電で発電された電気を、PPA事業者が、お客様へ有償で供給する仕組みです。



O & M(メンテナンス)

WEBモニタリング(遠隔監視)から、法により義務化されている保守・点検まで。お客様の太陽光発電所の安心稼働をサポートします。

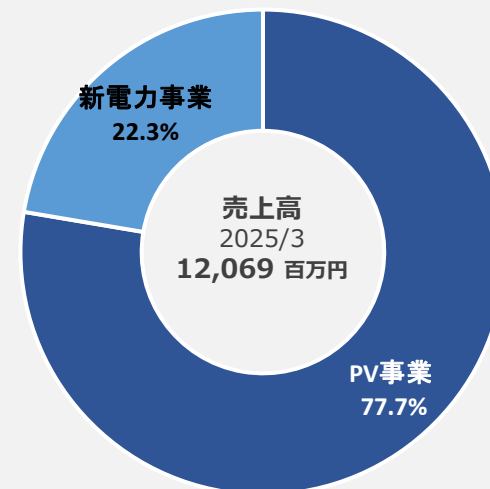
新電力事業

当社は、2001年に全国で8番目に特定規模電気事業者（電力小売）として登録し、2015年11月付で、経済産業省に登録小売電気事業者として登録されています。太陽光発電事業と電力販売は親和性の高い事業。シナジー効果で、幅広いサービスの提供を可能にします。



電力小売

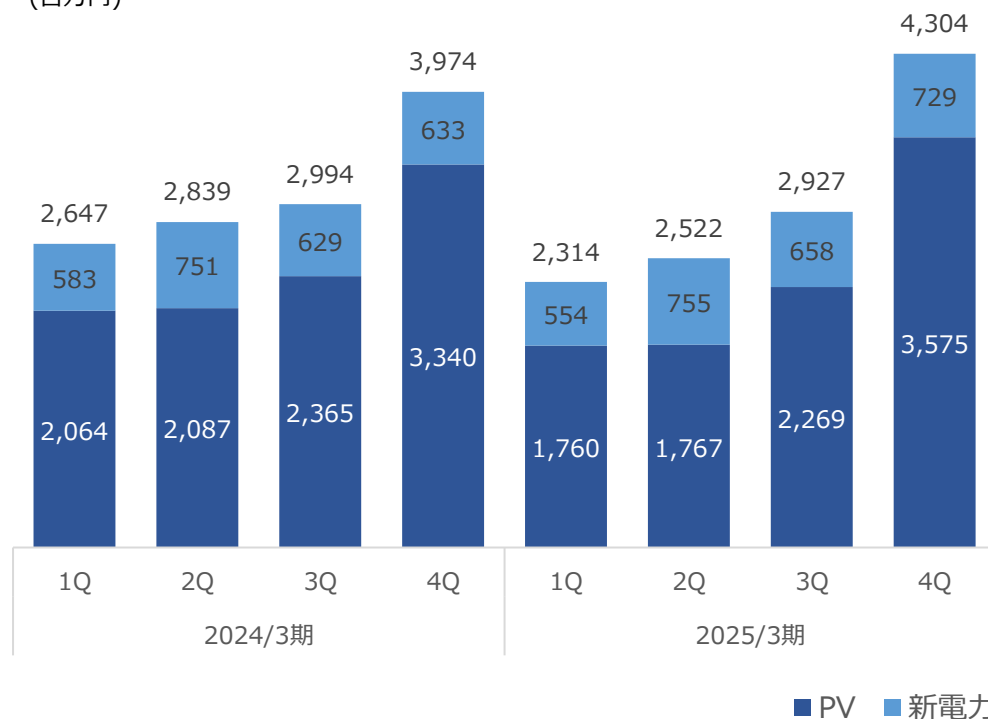
エネルギー領域 売上高構成比



エネルギー領域 | 売上高

PV事業において、電力会社との太陽光発電システムにかかる系統連系の遅れや案件の大型化・高度化等により受注から施工までの期間が長期化したことから、来期持ち越し案件となり減収

(百万円)



対前期比

△ **3.1%減**

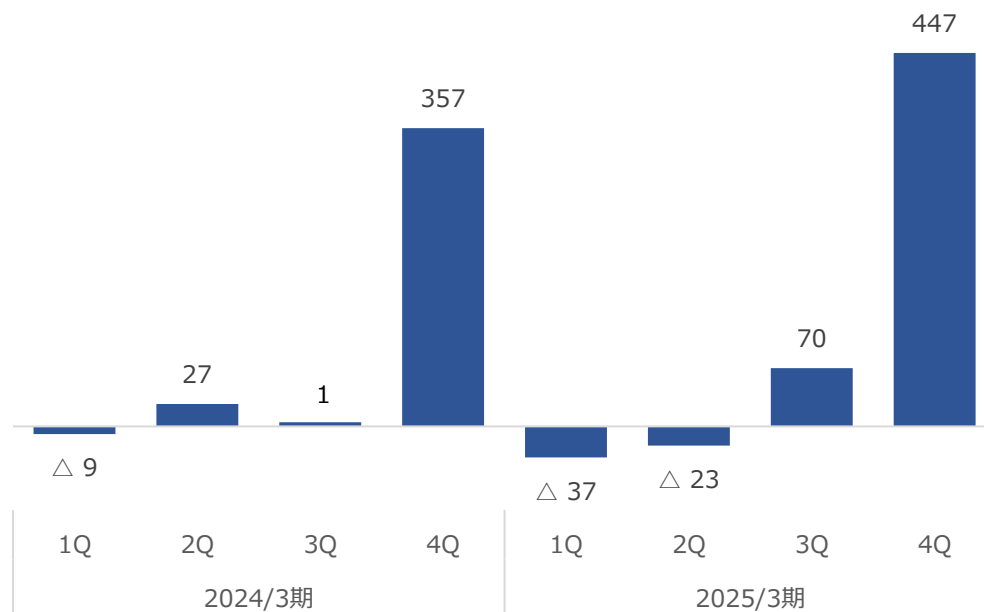
PV事業 △ **4.9%減**

新電力事業 **+3.8%増**

エネルギー領域 | 営業利益

PV事業において、案件ごとの採算管理の徹底及び材料コストの低減により粗利率が改善し増益

(百万円)

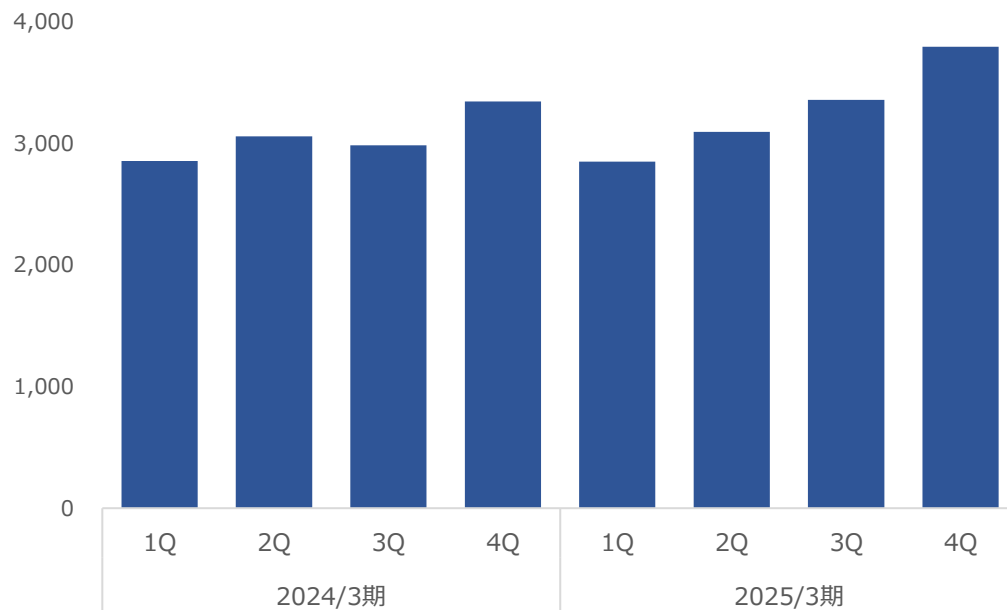


対前期比
+21.3%増

エネルギー領域 | PV事業 受注状況

受注高

(百万円)



脱炭素社会実現に向けた取り組みの
本格化と電力コストの高騰を背景に
自家消費への関心がより高まっている



受注は堅調

※受注高は、お客様より書面にて承諾をいただいた金額を記載

1. 2025年3月期 決算概況	P. 2
2. 2025年3月期 セグメント別概況	
①住環境領域（HS・ES・SE）	P. 10
②エネルギー領域（PV・新電力）	P. 15
③資源循環領域（環境資源）	P. 20
3. トピックス	P. 27
4. 2026年3月期 通期連結業績見通し	P. 36
5. 参考資料	P. 44



資源循環領域

資源を捨てずに循環させる

- 廃プラスチックの再資源化
- 廃プラスチックによる発電
- 廃液の浄化、再生燃料製造
- 産業廃棄物の最終処分

サニックスでは、産業廃棄物系プラスチックの燃料化・リサイクルや、食品工場などから排出される廃液の浄化及びリサイクルなど、次世代の地球環境を考えた事業を通じ、循環型社会の構築に貢献します。

廃プラスチックの燃料化

産業廃棄物系プラスチックの燃料化を目的とした工場（プラスチック資源開発工場）を、全国各地に15工場展開。大きさや形がさまざまな廃プラスチックを細かく破碎することにより、石油・石炭などの代替燃料として再生。マテリアルリサイクルを本格的に開始しています。



プラスチック資源開発工場



プラスチック燃料

資源循環型発電システム

プラスチック資源開発工場で燃料化したプラスチックを、発電施設のエネルギー源として利用。石炭と比べて、発熱量が高く、CO2排出量や焼却灰発生量が少なく、済むことから、環境負荷が低く、付加価値(非化石価値)の高い電気を供給します。



苫小牧発電所



最終処分場

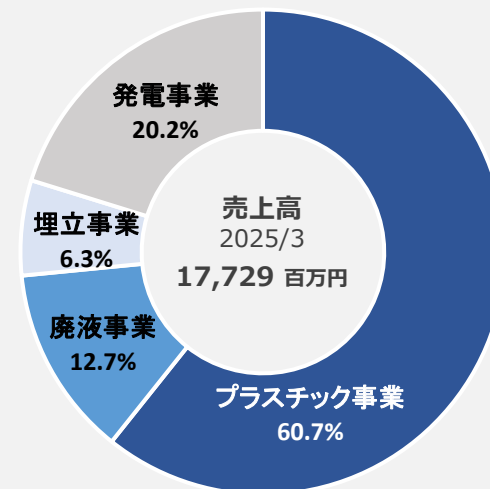
廃液の浄化処理・リサイクル

外食産業の店舗や食品工場、その他雑廃水ピットなどから排出される有機廃液などを、大量に受け入れる体制を整えています。一連の処理工程により、高濃度の汚濁成分を99%以上除去する能力を有しています。また、油分や、脱水汚泥の燃料化リサイクルも推進しています。



廃液処理工場

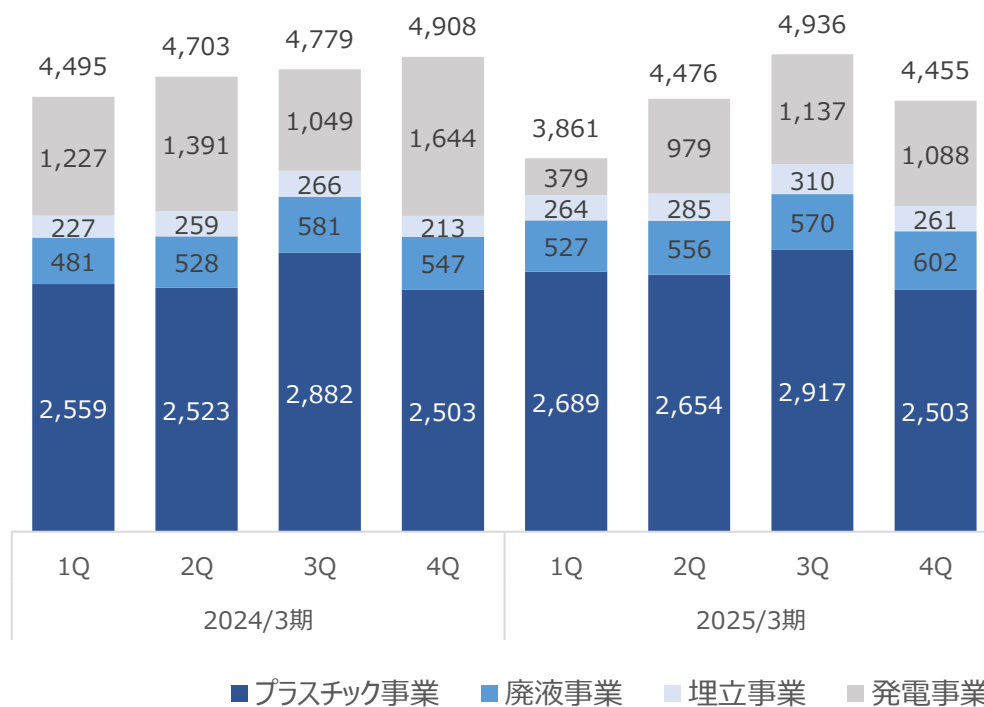
資源循環領域 売上高構成比



資源循環領域 | 売上高

発電事業の売電単価が大きく低下したことで減収
一方で、プラスチック・廃液・埋立事業はそれぞれ伸長

(百万円)



対前期比

△ 6.1%減

プラスチック事業 +2.8%増

廃液事業 +5.5%増

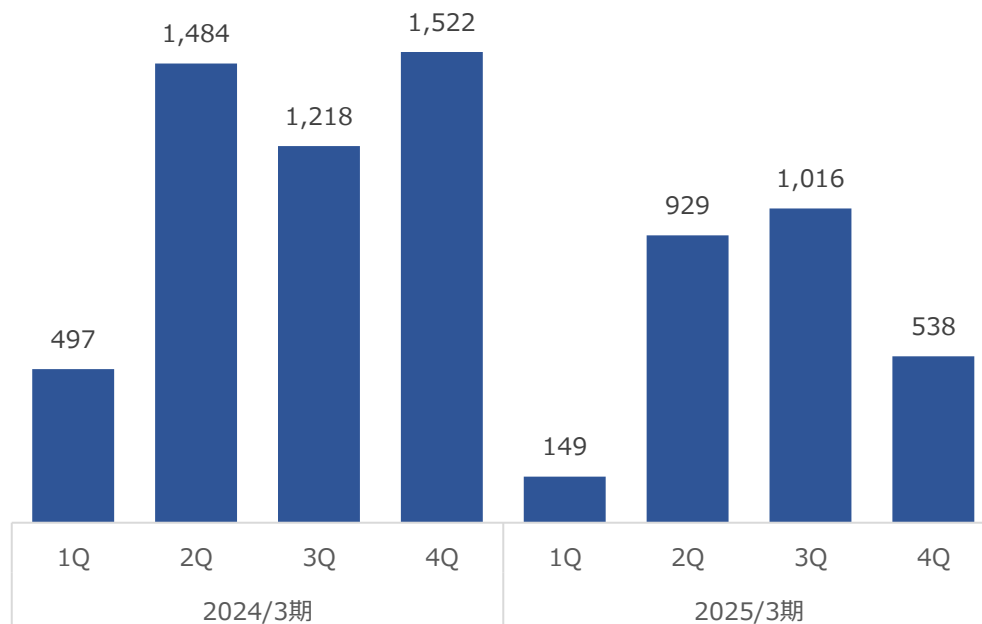
埋立事業 +16.2%増

発電事業 △32.5%減

資源循環領域 | 営業利益

発電事業の売電単価の低下及び廃棄業務一元管理システム(一元くん)のCM・広告等の実施により先行してコストが増加したことで減益

(百万円)



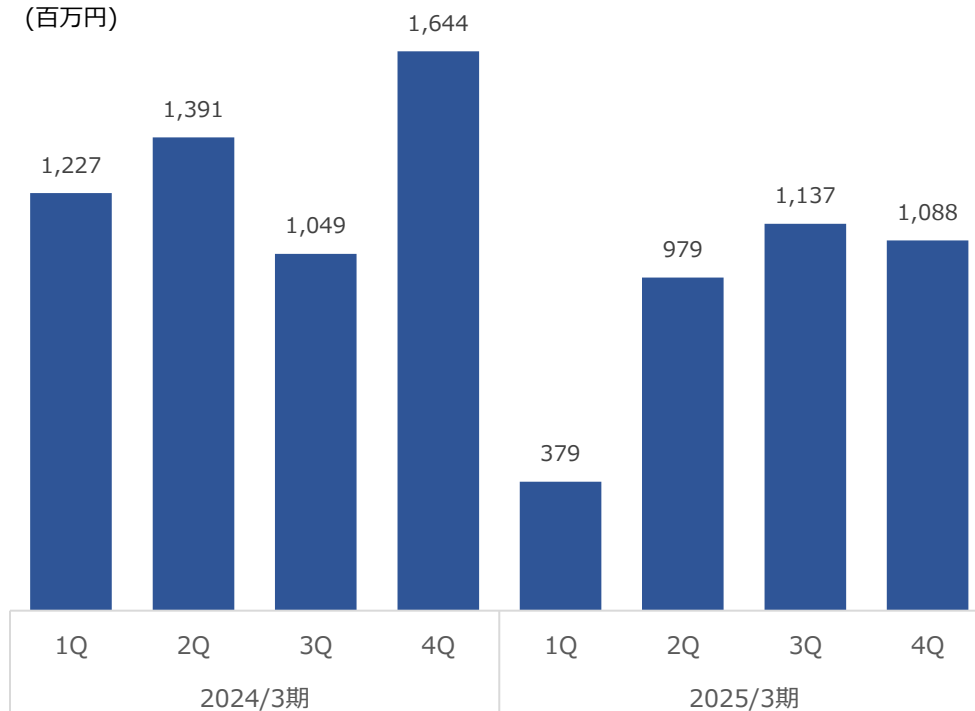
対前期比

△44.2%減

資源循環領域 | 発電事業 売上高

売電単価の低下及びタービン・ボイラー更新にともなう稼働日数の減少により減収

(百万円)



対前期比

△32.5%減

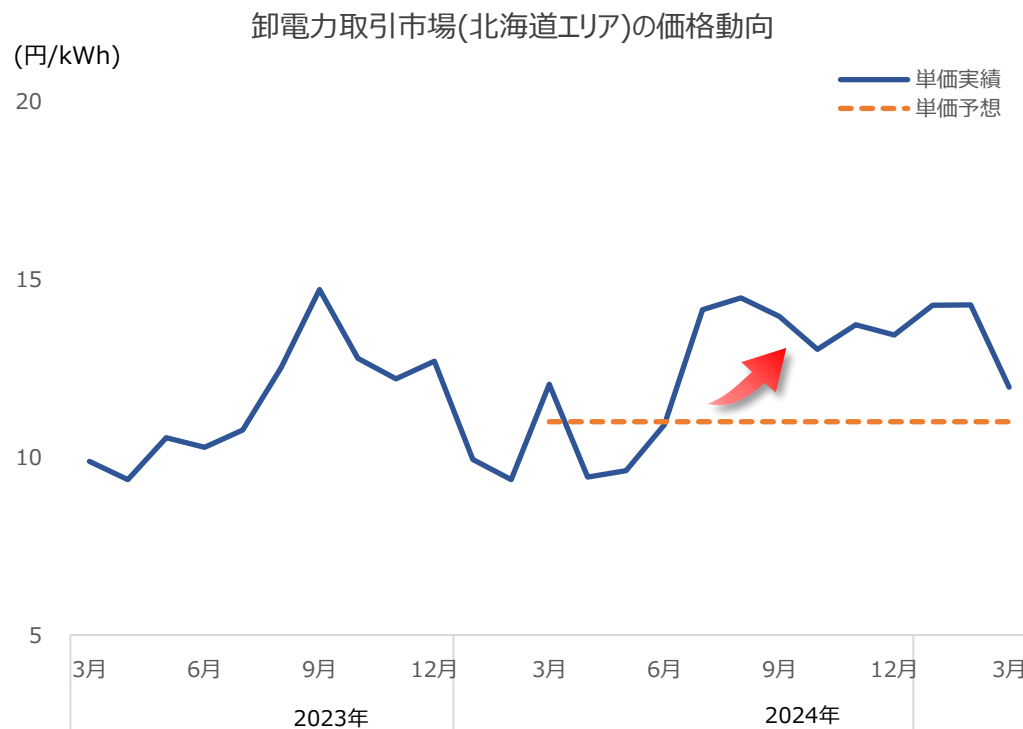
ボイラー更新 (1Q : 約2ヵ月)

タービン・ボイラー更新/法定点検
2025年3月下旬～2025年6月まで実施中

将来的な安定稼働に向けて、タービン・ボイラーの大規模な設備更新を実施

資源循環領域 | 発電事業の販売単価の推移

7月以降、卸電力取引市場の価格が上昇（好転）



販売面(発電事業)

7月以降、市場価格の上昇にともない、入札案件の販売価格も上昇
新たな販売先の確保ができています

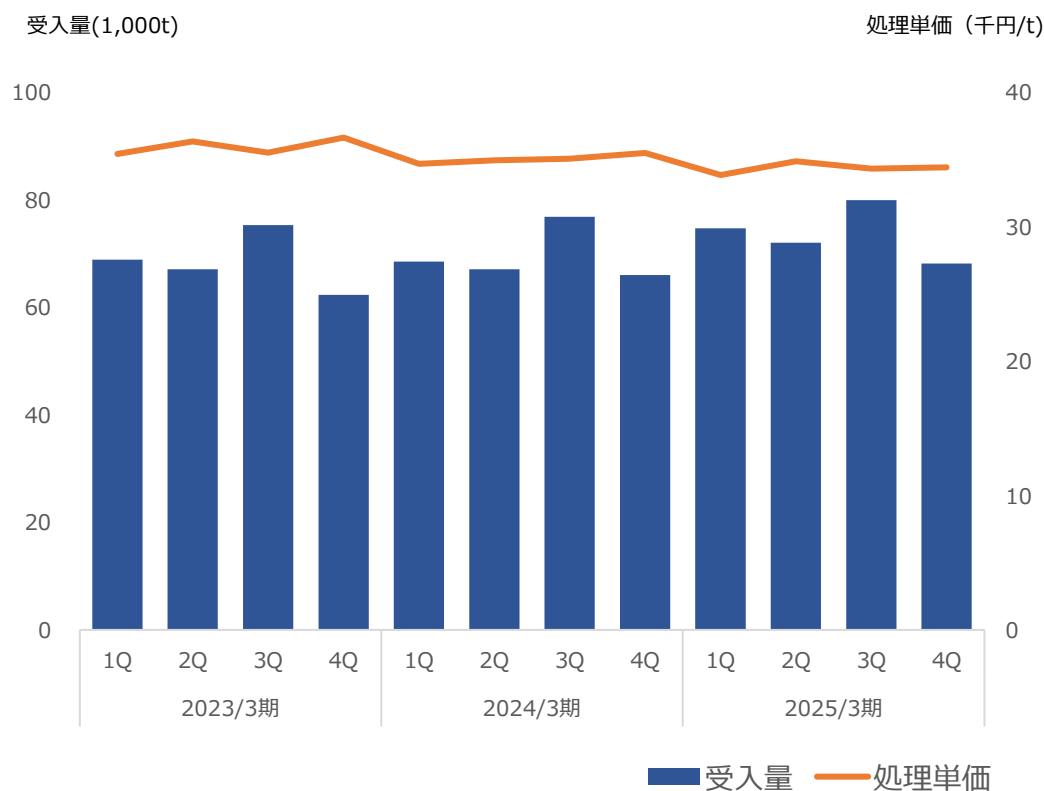
※卸電力取引市場（JEPX）の「スポット市場」資料を当社が加工

当社の電力調達に関わる重要な市場データとして、JEPX（スポット市場）価格の月間平均価格単価推移を記載しております。

JEPXの市場単価の予想は、価格予測サービスやLNG等の燃料価格の動向を鑑みて当社にて算出した数値を記載しております。

資源循環領域 | 廃プラスチックの受入状況

破砕設備の増強や対応可能品目の拡大により受入量の増加



※処理単価＝プラスチック燃料売上高 / 廃プラ受入量

対前期比

受入量 **+5.9%増**

処理単価 **△2.0%減**

1. 2025年3月期 決算概況	P. 2
2. 2025年3月期 セグメント別概況	
①住環境領域（HS・ES・SE）	P. 10
②エネルギー領域（PV・新電力）	P. 15
③資源循環領域（環境資源）	P. 20
3. トピックス	P. 27
4. 2026年3月期 通期連結業績見通し	P. 36
5. 参考資料	P. 44

配当について

2025年3月期

2025年3月期は、復配を見送り

理由・・・財務体質の健全化（繰越欠損金を解消）を実施するとともに、さらなる企業成長を加速させるため、中期経営計画における成長投資へ充当することとした

2026年3月期

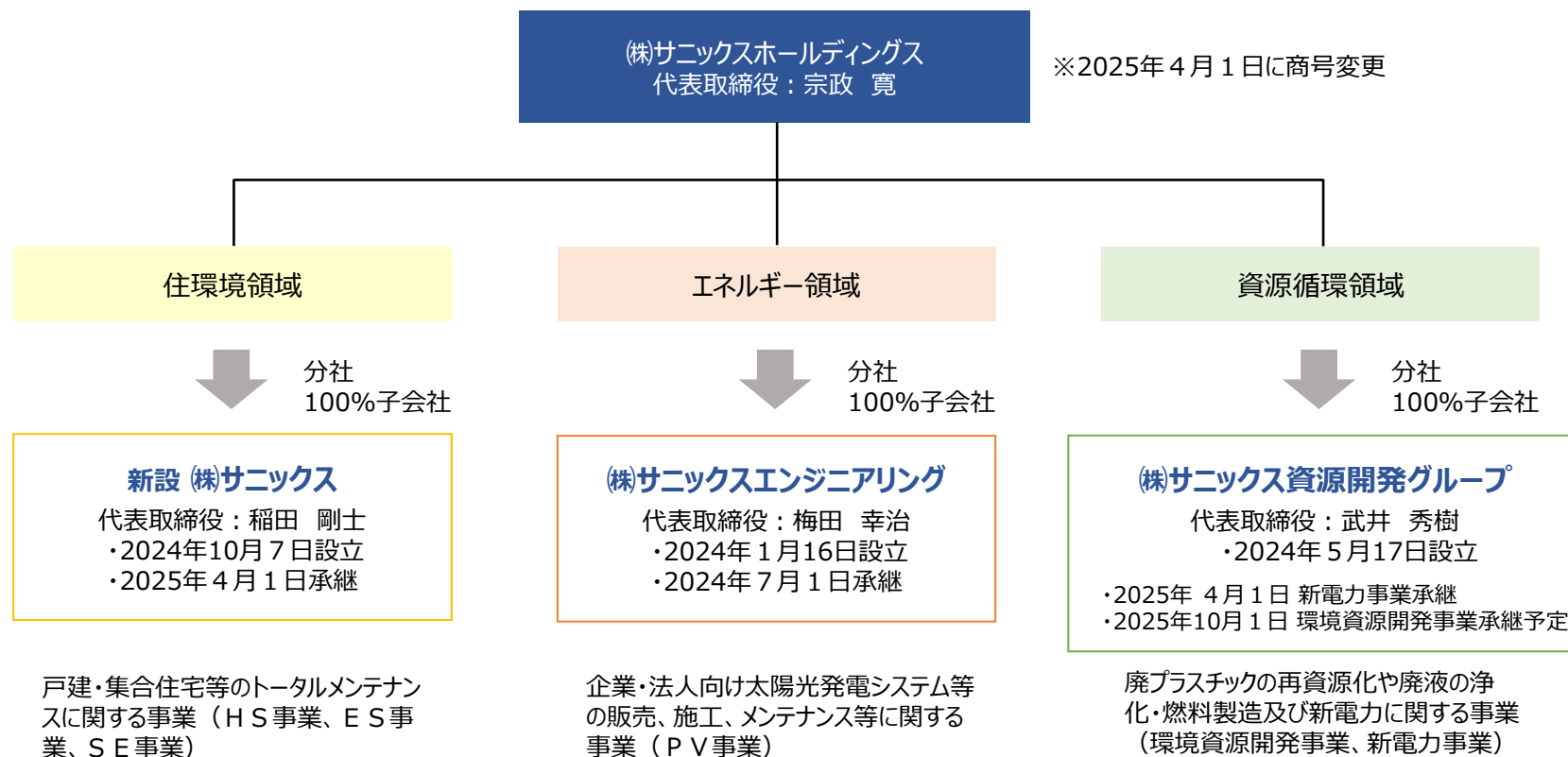
通期計画の達成を図り、

2026年3月期 **21年ぶりの復配** を目指す
(年間配当予想: 2円)

ホールディングス体制へ移行

2025年4月1日よりホールディングス体制へ移行

あらゆる経営環境の変化にも迅速に対応し、持続的な成長を目指す



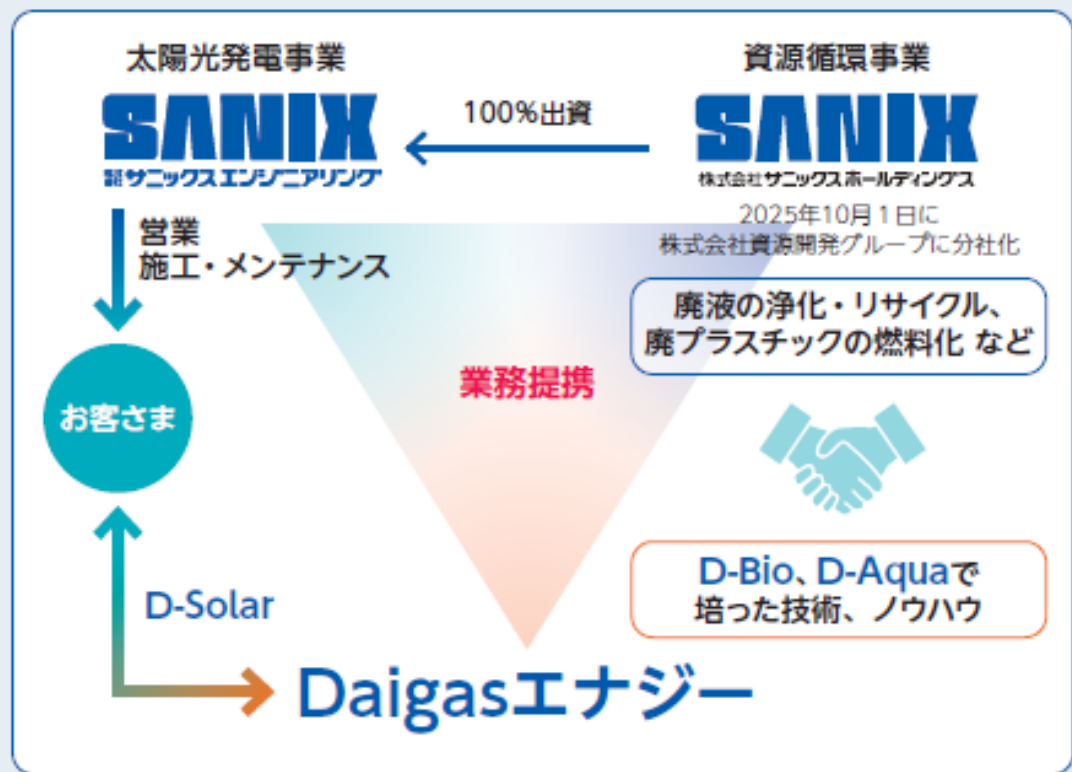
エネルギー領域 | さらなる事業拡大に向けた取り組み

法人向け太陽光発電事業及び資源循環事業において Daigasエナジー株式会社と業務提携契約を締結

当社グループは、法人向け太陽光発電事業及び資源循環事業のさらなる拡大を目的として、2025年3月7日にDaigasエナジー株式会社と業務提携契約を締結しました。

業務提携契約を締結することで、以下のソリューションが期待できます。

法人向け太陽光発電事業においては、約30,000件の施工実績（2025年3月時点）で培った、サニックスグループの営業力、施工・メンテナンス技術と、Daigasエナジーが持つ太陽光発電設備運用ノウハウを連携したソリューション



エネルギー領域 | さらなる事業拡大に向けた取り組み

お客様からの信頼を獲得し、大規模な自治体案件が増加

自治体実績

福岡県福岡市 8施設

「福岡市市有施設への
太陽光発電設備導入事業」

北海道苫小牧市 6施設

「苫小牧市市有施設への
太陽光発電設備導入事業」

福岡県篠栗町 3施設

「北勢門校区公共施設に
対する太陽光発電設備
導入事業」

徳島県鳴門市 1施設

「ボートレース鳴門
太陽光発電設備等設置業務」

栃木県大田原市 3施設

「大田原市公共施設への
太陽光発電設備導入事業」

熊本県 3施設

「県有施設への
再エネ導入事業」

神奈川県座間市 2施設

「座間市公共施設への
太陽光発電設備導入事業」

鹿児島県枕崎市
1施設

「枕崎市分散型
電源強化事業」

神奈川県座間市 1施設

「座間市福祉センターへの
太陽光発電設備導入事業」

資源循環領域 | さらなる事業基盤の拡大に向けた取り組み

再生油Bio「新エネ大賞」新エネルギー財団会長賞 受賞

サニックスグループでは、産業廃棄物由来の再生燃料「再生油Bio」が評価され、令和6年度「新エネ大賞」において新エネルギー財団会長賞を受賞しました。

▶現在、**4つの公的な評価**を頂いています！

- ・2021年「北九州エコプレミアム」
- ・2023年「福岡県県産リサイクル製品」
- ・2023年「経済産業省産業技術環境局長賞」



表彰式の様子<左：寺坂 信昭氏（一般財団法人 新エネルギー財団 会長）、右：宗政 寛（弊社 代表取締役社長）>

2025年1月29日

▼プレスリリース▼



再生油Bio

「再生油Bio」は、外食チェーン等の飲食店から発生する廃水や汚泥などの産業廃棄物から、ゴミや汚泥分を除去し、油分のみを分離回収することで、化石燃料の代替燃料として利用可能にした再生燃料です。また、動植物性由来の油分を原料とする、カーボンニュートラルの実現に貢献できる燃料であるとともに、未利用資源の活用により、「産業廃棄物の削減」と「再資源化」の両面を実現した製品です。

「再生油Bio・汚泥燃料化」について、それぞれに掲載されました ※閲覧するには登録が必要です。

2024年6月18日
日本経済新聞

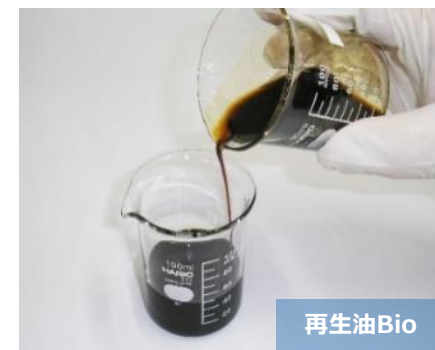


▲掲載記事

2025年2月6日
西日本新聞(朝刊)



▲掲載記事



再生油Bio

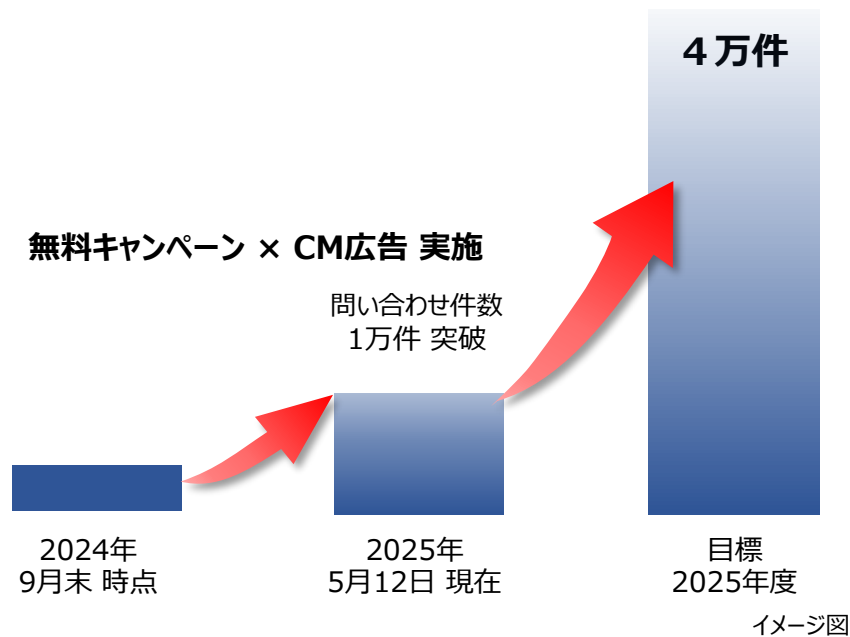
資源循環領域 | さらなる事業基盤の拡大に向けた取り組み

「環境エース一元くん」 2025年度末 4 万件 の販売を目指す

問い合わせ件数 1万件 突破

さまざまな業種の事業者様に導入頂いております

環境エース一元くん（販売目標）



株式会社 大紀アルミニウム工業所

TOBU

FRESSAY



東洋AILE



株式会社 日本インシーク



ハイビック株式会社

GOKO



お米となかよし

岩塚製菓



株式会社 ソーコ



株式会社 アイワコーポ

導入先の一部を記載（順不同）

問い合わせ件数は2025年5月12日現在の数値です

資源循環領域 | さらなる事業基盤の拡大に向けた成長投資

「再生油Bio」の製造ラインを増設

2024年3月より稼働開始し、処理能力が2倍に拡大
生産能力 2,160t/年 ▶ 生産能力 4,320t/年

さらに、汚泥を燃料化する設備投資を実施予定

2029年3月期までに**年1万トンの製造を目指し、4ライン**
 を導入する予定

- 2025年3月期 廃液処理にかかる投資：3.3億円



再生油Bio製造設備



ひびき工場（廃液処理工場）

苫小牧発電所のボイラー・タービンをリニューアル

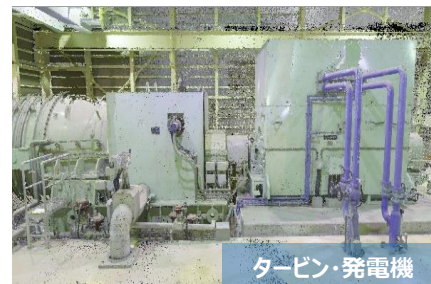
ボイラーは、2025年3月期よりボイラー内部の経年劣化した配
 管を5年程度に分割して交換を実施中

タービン・発電機は、現在使用している廃プラ燃料の特性に合
 わせた設計に変更・交換を2026年3月期に実施予定

※2025年3月中旬から6月末まで稼働停止中

発電出力 ▶ 平均8%程度の向上を見込む

- 2025年3月期 苫小牧発電所にかかる投資：11.6億円
 （ボイラー・タービン）



タービン・発電機



苫小牧発電所

2003年10月の稼働開始以降、約20年が経過した苫小牧発電
 所の主要設備を中心に、将来的な安定稼働・効率化に向けた大
 規模投資を実施中

資源循環領域 | さらなる事業基盤の拡大に向けた成長投資

最終処分場の増設

- 2025年3月期 埋立処理にかかる投資：3.5億円

安定した埋立事業継続に向けて、第6期B処分場を建設中

2025年12月より稼働予定

第6期B処分場
面積：58,370m²
埋立容量：414,390m³



第6期B処分場 建設中



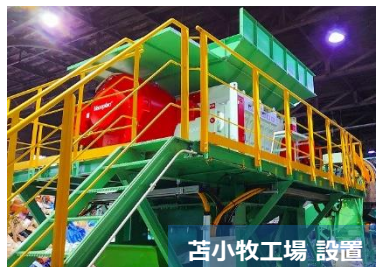
最終処分場（全体）

- 2025年3月期 廃プラ処理設備にかかる投資：8.7億円

前処理設備の増強を実施

- ▶ 処理能力が大幅に向上し、受入量の拡大へ

- 苫小牧工場 導入済
- 太田工場 2025年5月稼働予定
受入可能量 約17%アップを見込む
- その他工場においても随時導入予定



苫小牧工場 設置

マテリアルリサイクル破碎設備を導入

- ▶ マテリアルリサイクル破碎設備をあらたに導入し、本格的にマテリアルリサイクル事業へ参入

- 富士工場、真岡工場 導入済
- その他工場においても随時導入予定



真岡工場 設置

1. 2025年3月期 決算概況	P. 2
2. 2025年3月期 セグメント別概況	
①住環境領域（HS・ES・SE）	P. 10
②エネルギー領域（PV・新電力）	P. 15
③資源循環領域（環境資源）	P. 20
3. トピックス	P. 27
4. 2026年3月期 通期連結業績見通し	P. 36
5. 参考資料	P. 44

ホールディングス体制移行によるセグメント区分の変更

Point① 新電力事業 エネルギー領域 ▶ 資源循環領域 へセグメント区分を変更

Point② HS事業・SE事業 生産性を高めるため一つの事業部門へ統合

住環境領域

HS事業・・・戸建住宅向けサービス事業
ES事業・・・法人・事業主向けサービス事業
SE事業・・・戸建住宅向け太陽光発電システム事業

エネルギー領域

PV事業・・・・・・法人向け太陽光発電事業
新電力事業・・・電力小売事業

資源循環領域

環境資源開発事業・・・廃プラスチック処理、廃液処理、
発電事業、埋立処理など

住環境領域

HSE事業・・・戸建住宅向けサービス事業(太陽光含む)
ES事業・・・法人・事業主向けサービス事業

エネルギー領域

PV事業・・・法人向け太陽光発電事業

資源循環領域

環境資源開発事業・・・廃プラスチック処理、廃液処理、
発電事業、埋立処理など
新電力事業・・・・・・電力小売事業

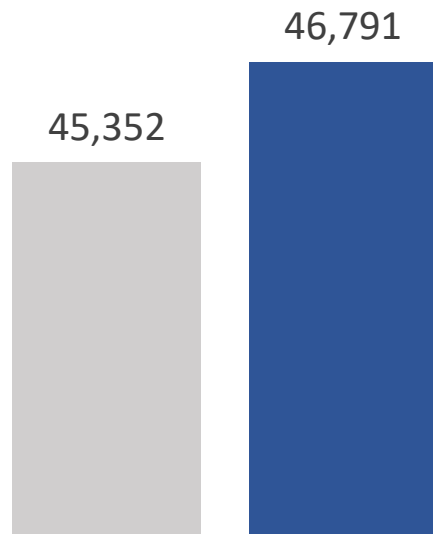
その他事業 / ホールディングス

2026年3月期 通期連結業績見通し

対前期比 増収・増益

売上高 +3.2%増

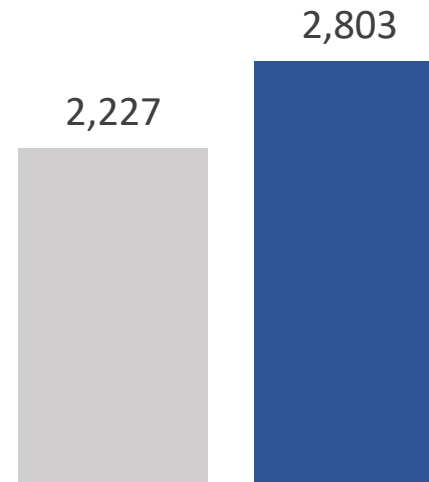
売上高 (百万円)



■ 2025/3 実績 ■ 2026/3 計画

営業利益 +25.9%増

営業利益 (百万円)



■ 2025/3 実績 ■ 2026/3 計画

2026年3月期 通期連結業績見通し

●売上高 46,791百万円（前期比 103.2%）

●営業利益 2,803百万円（前期比 125.9%）

(百万円)	上半期			下半期			通期		
	前期実績	計画	前年同期差異	前期実績	計画	前年同期差異	前期実績	計画	前期差異
売上高	21,259	22,026	+767	24,092	24,764	+671	45,352	46,791	+1,439
売上総利益	7,761	7,773	+11	8,844	9,398	+553	16,606	17,171	+565
（売上高売上総利益率）	36.5%	35.3%		36.7%	38.0%		36.6%	36.7%	
営業利益	650	512	△137	1,576	2,290	+713	2,227	2,803	+576
（売上高営業利益率）	3.1%	2.3%		6.5%	9.2%		4.9%	6.0%	
経常利益	499	257	△242	1,450	2,177	+726	1,950	2,434	+484
（売上高経常利益率）	2.4%	1.2%		6.0%	8.8%		4.3%	5.2%	
親会社株主に帰属 する当期純利益	270	187	△82	1,213	1,587	+374	1,483	1,775	+291
（売上高当期純利益率）	1.3%	0.9%		5.0%	6.4%		3.3%	3.8%	

通期連結業績見通し | セグメント別見通し

(百万円)	上半期			下半期			通期		
	前期実績	計画	前年同期差異	前期実績	計画	前年同期差異	前期実績	計画	前期差異
売上高	21,259	22,026	+ 767	24,092	24,764	+ 671	45,352	46,791	+ 1,439
住環境領域	7,860	8,267	+ 406	7,231	7,931	+ 700	15,091	16,198	+ 1,106
エネルギー領域	3,527	3,821	+ 294	5,844	5,865	+ 21	9,372	9,687	+ 315
資源循環領域	9,647	9,743	+ 95	10,779	10,689	△ 90	20,426	20,432	+ 5
その他	223	194	△ 29	237	278	+ 40	461	472	+ 11
営業利益	650	512	△ 137	1,576	2,290	+ 713	2,227	2,803	+ 576
住環境領域	1,031	1,286	+ 254	813	1,008	+ 195	1,844	2,294	+ 450
エネルギー領域	△ 149	△ 148	+ 0	437	735	+ 298	288	586	+ 298
資源循環領域	1,167	739	△ 428	1,636	1,769	+ 133	2,804	2,509	△ 294
その他	△ 14	△ 18	△ 4	△ 6	26	+ 32	△ 20	7	+ 28
全社費用	△ 1,385	△ 1,345	+ 40	△ 1,303	△ 1,249	+ 53	△ 2,689	△ 2,595	+ 93

※2026年3月期は、ホールディングス体制移行に伴い、セグメント区分を変更しております。
変更により、前期の数値を変更後セグメント区分に組み替えた数値で前期比較しております。

通期連結業績見通し | セグメント別見通し【住環境領域】

●前期比 増収・増益

- 既存顧客への継続的なフォロー体制の拡充及び法人営業体制強化による顧客基盤の拡大を図る
- 戸建住宅向けサービスでは、生産性を高めるため、HS事業とSE事業を統合し、幅広い住宅環境ニーズへの対応を目指す
- 集合住宅向けサービスでは、防錆機器（ドールマンショック）から給排水設備の保全対策へ拡大へ

(百万円)	上半期			下半期			通期		
	前期実績	計画	前年同期 差異	前期実績	計画	前年同期 差異	前期実績	計画	前期差異
売 上 高	7,860	8,267	+ 406	7,231	7,931	+ 700	15,091	16,198	+ 1,106
売 上 原 価	3,352	3,537	+ 184	3,180	3,557	+ 376	6,533	7,094	+ 561
うち、材料費	1,095	1,133	+ 37	978	1,099	+ 120	2,073	2,232	+ 158
うち、労務費	1,139	1,251	+ 112	1,121	1,253	+ 132	2,260	2,505	+ 244
売 上 総 利 益	4,507	4,730	+ 222	4,050	4,374	+ 323	8,558	9,104	+ 545
販 売 費 ・ 一 般 管 理 費	3,476	3,443	△ 32	3,237	3,365	+ 127	6,713	6,809	+ 95
うち、人件費	2,129	2,246	+ 117	2,011	2,230	+ 218	4,141	4,477	+ 336
営 業 利 益	1,031	1,286	+ 254	813	1,008	+ 195	1,844	2,294	+ 450

通期連結業績見通し | セグメント別見通し【エネルギー領域】

●前期比 増収・増益

- 「自家消費型」太陽光発電システム販路拡大を図るとともに、既設太陽光発電所の機器交換・アフターメンテナンスの体制強化を進める
- 案件ごとの採算管理の徹底及び材料コストの低減を図り、さらなる収益構造の改善を目指す

(百万円)	上半期			下半期			通期		
	前期実績	計画	前年同期 差異	前期実績	計画	前年同期 差異	前期実績	計画	前期差異
売 上 高	3,527	3,821	+ 294	5,844	5,865	+ 21	9,372	9,687	+ 315
売 上 原 価	2,626	2,849	+ 223	4,181	4,009	△ 171	6,808	6,859	+ 51
うち、材料費	1,431	1,535	+ 104	2,453	2,344	△ 109	3,885	3,880	△ 5
うち、労務費	305	329	+ 24	344	314	△ 29	649	644	△ 5
売 上 総 利 益	901	972	+ 71	1,662	1,855	+ 193	2,564	2,828	+ 264
販 売 費 ・ 一 般 管 理 費	1,050	1,121	+ 70	1,225	1,120	△ 105	2,275	2,241	△ 34
うち、人件費	571	607	+ 36	626	611	△ 14	1,197	1,219	+ 21
営 業 利 益	△ 149	△ 148	+ 0	437	735	+ 298	288	586	+ 298

通期連結業績見通し | セグメント別見通し【資源循環領域】

●前期比 増収・減益

- プラスチック事業では、設備増強及びマテリアルリサイクル設備の導入により受入・販路拡大へ
 - 廃液処理では、廃液処理後に発生する汚泥を燃料化する設備投資を実施
 - 発電事業では、1 Qにおいて、将来的な安定稼働・発電効率の向上に向けた大規模投資を実施
- 加えて、同期間に法定の定期点検を実施することに伴い、稼働日数の減少及び修繕コストが増加し減益となる見通し

(百万円)	上半期			下半期			通期		
	前期実績	計画	前年同期 差異	前期実績	計画	前年同期 差異	前期実績	計画	前期差異
売上高	9,647	9,743	+ 95	10,779	10,689	△ 90	20,426	20,432	+ 5
プラスチック事業	5,344	5,363	+ 18	5,421	5,564	+ 143	10,765	10,927	+ 162
発電事業	1,359	1,293	△ 65	2,225	1,973	△ 252	3,584	3,266	△ 318
廃液事業	1,083	1,131	+ 47	1,172	1,164	△ 8	2,256	2,295	+ 39
埋立事業	550	520	△ 30	572	539	△ 32	1,122	1,060	△ 62
新電力事業	1,309	1,434	+ 125	1,387	1,447	+ 59	2,697	2,882	+ 184
売上原価	7,348	7,714	+ 366	7,710	7,608	△ 102	15,058	15,322	+ 263
うち、労務費	1,002	1,058	+ 56	1,050	1,058	+ 8	2,052	2,117	+ 64
売上総利益	2,299	2,028	△ 270	3,068	3,080	+ 12	5,367	5,109	△ 258
販売費・一般管理費	1,131	1,288	+ 157	1,432	1,310	△ 121	2,563	2,599	+ 36
うち、人件費	661	785	+ 124	712	790	+ 78	1,373	1,576	+ 202
営業利益	1,167	739	△ 428	1,636	1,769	+ 133	2,804	2,509	△ 294

1. 2025年3月期 決算概況	P. 2
2. 2025年3月期 セグメント別概況	
①住環境領域（HS・ES・SE）	P. 10
②エネルギー領域（PV・新電力）	P. 15
③資源循環領域（環境資源）	P. 20
3. トピックス	P. 27
4. 2026年3月期 通期連結業績見通し	P. 36
5. 参考資料	P. 44

2025年3月期 決算概況

(百万円)	2024/3期 実績	2025/3期 実績	前期差異	前期比	2025/3期 計画	計画比
売上高	47,167	45,352	△ 1,815	96.2%	46,246	98.1%
売上総利益 (売上高売上総利益率)	18,102 38.4%	16,606 36.6%	△ 1,496	91.7%	16,001 34.6%	103.8%
営業利益 (売上高営業利益率)	3,744 7.9%	2,227 4.9%	△ 1,516	59.5%	1,715 3.7%	129.8%
経常利益 (売上高経常利益率)	3,466 7.3%	1,950 4.3%	△ 1,515	56.3%	1,440 3.1%	135.4%
親会社株主に帰属 する当期純利益 (売上高当期純利益率)	2,697 5.7%	1,483 3.3%	△ 1,213	55.0%	1,093 2.4%	135.6%

2025年3月期 セグメント別概況

(百万円)	2024/3期 実績	2025/3期 実績	前期差異	前期比	2025/3期 計画	計画比
売上高	47,167	45,352	△ 1,815	96.2%	46,246	98.1%
住環境領域	15,824	15,553	△ 271	98.3%	17,704	87.9%
エネルギー領域	12,455	12,069	△ 386	96.9%	12,320	98.0%
資源循環領域	18,886	17,729	△ 1,157	93.9%	16,221	109.3%
営業利益	3,744	2,227	△ 1,516	59.5%	1,715	129.8%
住環境領域	1,724	1,823	+ 99	105.8%	2,379	76.6%
エネルギー領域	377	457	+ 80	121.3%	252	180.9%
資源循環領域	4,722	2,635	△ 2,087	55.8%	1,863	141.4%
本社費用	△ 3,079	△ 2,689	+ 390	—	△ 2,780	—

セグメント別概況 | 住環境領域

	2024/3期 実績	2025/3期 実績	前期差異	前期比	2025/3期 計画	計画比
(百万円)						
売上高	15,824	15,553	△ 271	98.3%	17,704	87.9%
H S 事業	11,857	11,787	△ 69	99.4%	13,318	88.5%
E S 事業	2,700	2,571	△ 128	95.2%	2,800	91.8%
S E 事業	1,267	1,193	△ 73	94.2%	1,586	75.3%
売上原価	6,957	6,878	△ 78	98.9%	8,008	85.9%
うち、材料費	2,315	2,117	△ 198	91.4%	2,781	76.1%
うち、労務費	2,471	2,454	△ 17	99.3%	2,708	90.6%
売上総利益	8,867	8,674	△ 193	97.8%	9,695	89.5%
販売費・一般管理費	7,143	6,850	△ 292	95.9%	7,316	93.6%
うち、人件費	4,435	4,241	△ 193	95.6%	4,665	90.9%
営業利益	1,724	1,823	+ 99	105.8%	2,379	76.6%

セグメント別概況 | エネルギー領域

(百万円)	2024/3期 実績	2025/3期 実績	前期差異	前期比	2025/3期 計画	計画比
売上高	12,455	12,069	△ 386	96.9%	12,320	98.0%
P V 事業	9,857	9,372	△ 485	95.1%	9,884	94.8%
新電力事業	2,598	2,697	+ 98	103.8%	2,436	110.7%
売上原価	10,005	9,193	△ 812	91.9%	9,989	92.0%
うち、材料費	7,099	6,270	△ 828	88.3%	6,925	90.5%
うち、労務費	604	649	+ 45	107.5%	633	102.5%
売上総利益	2,450	2,876	+ 425	117.4%	2,330	123.4%
販売費・一般管理費	2,073	2,418	+ 345	116.7%	2,078	116.4%
うち、人件費	1,118	1,280	+ 161	114.5%	1,112	115.2%
営業利益	377	457	+ 80	121.3%	252	180.9%

セグメント別概況 | 資源循環領域

(百万円)	2024/3期 実績	2025/3期 実績	前期差異	前期比	2025/3期 計画	計画比
売上高	18,886	17,729	△ 1,157	93.9%	16,221	109.3%
プラスチック事業	10,468	10,765	+ 297	102.8%	10,263	104.9%
発電事業	5,312	3,584	△ 1,728	67.5%	2,903	123.5%
廃液事業	2,139	2,256	+ 117	105.5%	2,335	96.6%
埋立事業	966	1,122	+ 156	116.2%	718	156.3%
売上原価	12,102	12,673	+ 571	104.7%	12,246	103.5%
うち、労務費	1,949	2,052	+ 102	105.3%	1,999	102.6%
売上総利益	6,784	5,055	△ 1,728	74.5%	3,974	127.2%
販売費・一般管理費	2,062	2,420	+ 358	117.4%	2,111	114.7%
うち、人件費	1,235	1,290	+ 55	104.5%	1,278	101.0%
営業利益	4,722	2,635	△ 2,087	55.8%	1,863	141.4%

財務状況

単位:百万円	2024/3期 期末	2025/3期 期末	前 期 末	
			差異	前期比
流動資産	16,211	13,873	△ 2,337	85.6%
固定資産	20,753	22,781	+ 2,027	109.8%
資産合計	36,965	36,655	△ 310	99.2%
流動負債	18,010	16,910	△ 1,099	93.9%
固定負債	10,042	9,574	△ 468	95.3%
負債合計	28,053	26,484	△ 1,568	94.4%
純資産合計	8,912	10,170	+ 1,258	114.1%
負債純資産合計	36,965	36,655	△ 310	99.2%
自己資本比率	24.1%	27.7%		

設備投資・減価償却費 実績

	2024/3期 実績	2025/3期 実績
(百万円)		
住環境領域	16	41
エネルギー領域	328	685
資源循環領域	2,238	3,274
本社	159	53
設備投資合計	2,743	4,053
減 価 償 却 費	1,654	1,701

【主な設備投資】

【資源循環領域】

- 苫小牧発電所にかかる投資 : 1,166百万円
- 廃プラスチック処理設備にかかる投資 : 876百万円
- 埋立処理にかかる投資 : 357百万円
- 廃液処理にかかる投資 : 339百万円

【エネルギー領域】

- 自治体向けPPAにかかる投資 : 374百万円

セグメント別 人員・拠点数

		2024/3期 期末		2025/3期 期末		人員増減
		拠点数	人員数	拠点数	人員数	
H S 事業		62	864	62	870	+6
E S 事業		12	162	9	134	△28
S E 事業		14	75	14	64	△11
P V 事業		30	245	27	263	+18
新電力事業		1	13	1	15	+2
環境資源開発事業		19	455	19	490	+35
本社		—	235	—	218	△17
合 計		—	2,049	—	2,054	+5

※上記拠点数には、同一拠点を含む

※環境資源開発部門は、発電所1拠点、最終処分場1拠点含む

重要経営指標

		2022/3期 実績	2023/3期 実績	2024/3期 実績	2025/3期 実績	2025/3期 計画
自己資本当期純利益率	ROE	—	24.8%	36.1%	15.6%	11.6%
総資産経常利益率	ROA	—	4.5%	9.8%	5.3%	3.8%
自己資本比率		13.5%	18.0%	24.1%	27.7%	25.4%
投下資本利益率	ROIC	—	8.4%	14.4%	7.9%	6.4%
設備投資（百万円）		2,776	1,566	2,743	4,053	3,900
減価償却費（百万円）		1,509	1,889	1,654	1,701	1,700

補足資料

企業理念 「次世代へ快適な環境を」

エネルギー領域

- PV
- 新電力

『環境負荷の低い

エネルギーが当たり前の社会』

再エネの主力電源化、分散電源、自家消費、
マイクログリッド、V P P

『快適な住環境を次世代に
つなぐのが当たり前の社会』

長期優良住宅、住宅のストック化、既存住宅
流通市場形成

住環境領域

- HS
- ES
- SE

資源循環領域

- 環境資源

『捨てないのが当たり前の社会』

環境基本計画、循環型社会形成推進、
プラスチック資源循環戦略

H S 事業構造

シロアリ防除サービス

- ・ 5 年間保証
- ・ 年 1 回の定期点検

家につわるさまざまな
ニーズに応じたサービス・
商品を提案

床下・天井裏換気システム

家屋の湿気対策

基礎補修・補強工事

基礎のひび割れ補修
新たなひび割れ抑制

家屋補強システム

家屋の耐震性、耐久性を
高めるシステム

その他

リフォーム他、
環境改善商品

顧客基盤の形成フロー

新規顧客

顧客基盤の構築

新規顧客

1 2 3 4 5

再消毒

1 2 3 4 5

再消毒

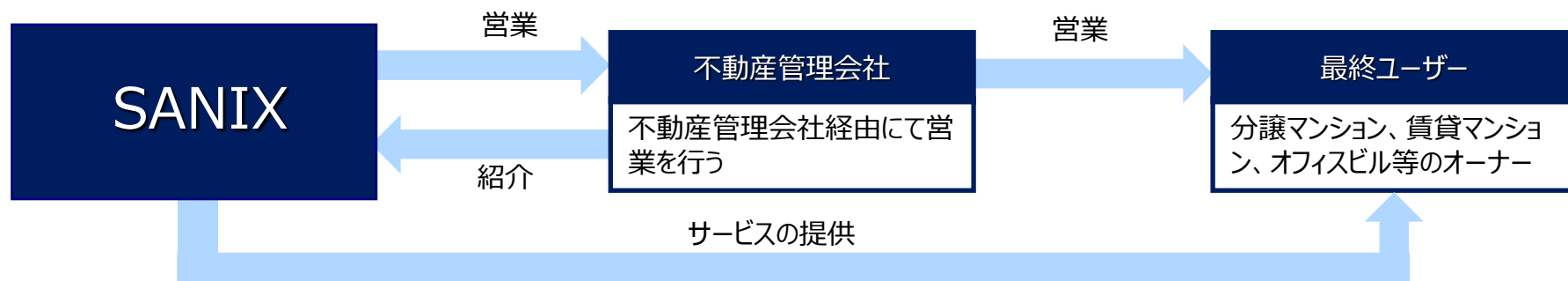
5 年間保証
年 1 回定期点検

5 年間保証
年 1 回定期点検

訪問・チラシ・紹介

顧客との信頼関係の構築により、
新たなニーズの開拓・獲得

E S 事業構造



主なサービス・商品

給排水設備保全サービス

- ・防錆機器取付(ドールマン・ショック)
- ・管工事(給排水管の補修、交換等)
- ・水廻工事

構築物保全サービス

建物の屋上
外壁の防水塗装 等

その他

環境汚染対策 等

SANIX/PCOサービス

害虫・害獣の駆除・予防サービス、HACCP

レストラン、飲食店、ホテル、食品工場 等



新規契約

年間契約 (月 1 回の点検、消毒)



1 年目

年間契約のため、継続率が高い

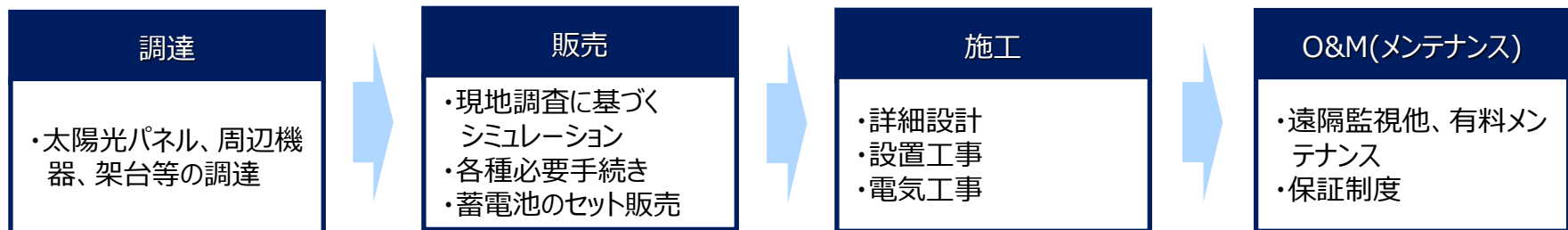


2 年目



SE/PV事業構造

調達・販売・施工・メンテナンスまでトータルサービスを提供



住宅向け（10kW未満） 主にSE事業

- 新築住宅：ZEH普及促進
- 既築住宅：省エネ改修支援等による導入加速を背景に、住宅・小規模建築物向け太陽光発電市場は堅調な推移が見込まれる

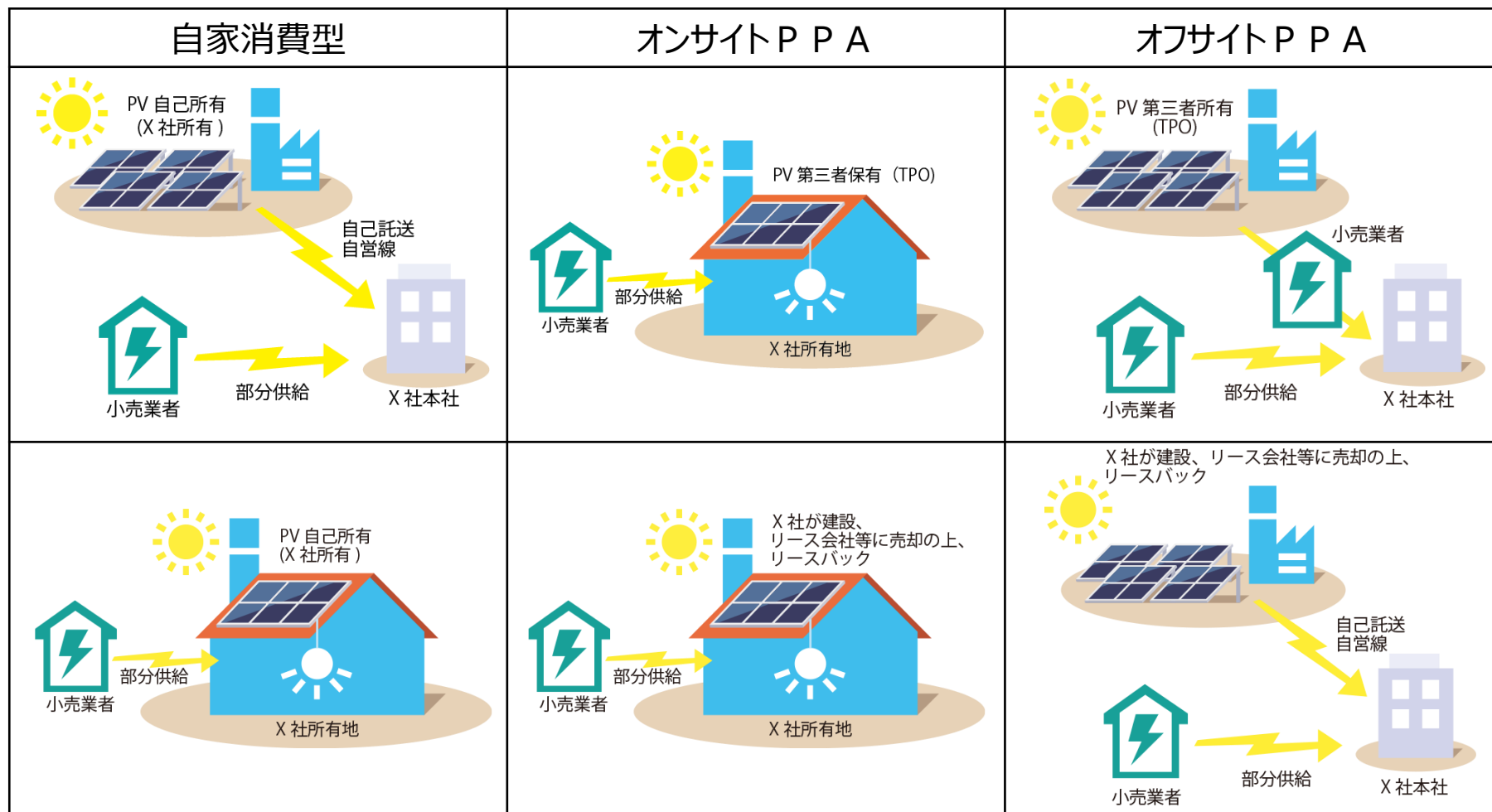
➡ 住宅太陽光発電市場専門の組織を新たに編成し、積極的な開拓を狙う

法人・自治体向け（10kW以上） 主にPV事業

企業や地方自治体を中心に、脱炭素への取り組みが本格化。太陽光発電設備の導入・保有方法や、発電電力の供給方法等が多様化・高度化することでFIT制度下とは異なる市場が大きく成長することが見込まれる

➡ 各種サービスを展開するための協業体制が整い、FIT制度に依存しない太陽光発電の営業を本格化
更なる他社協業を進め、提供サービスの拡充を図る

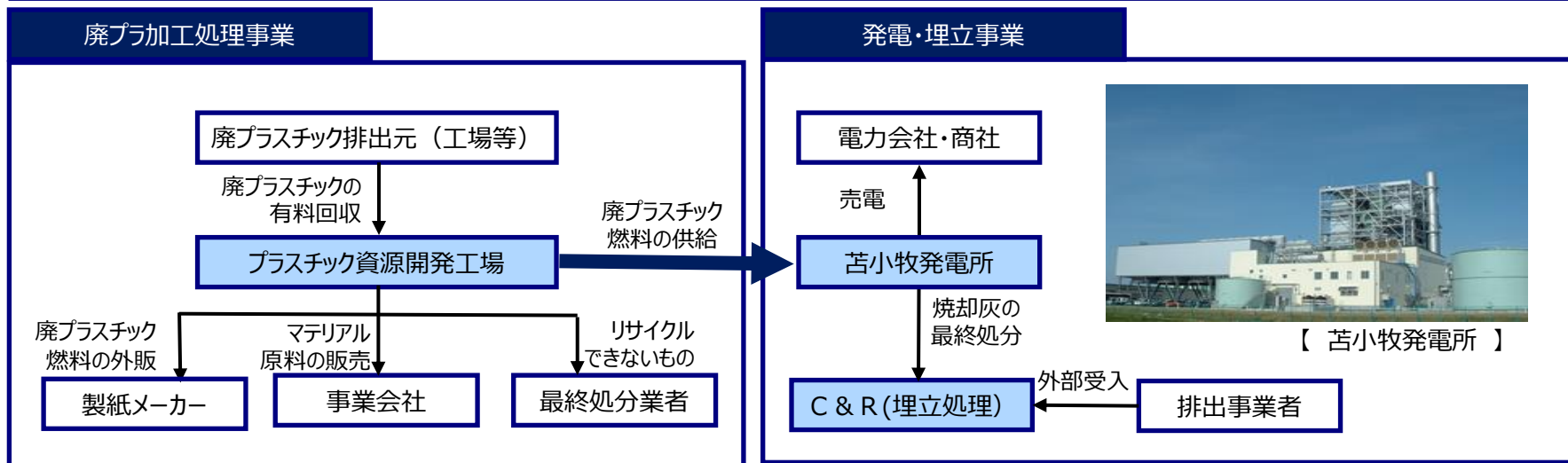
電力料金の上昇と、太陽光発電システムの低コスト化やPPAサービスの浸透等を背景に、経済合理性・脱炭素対応・レジリエンス強化、それぞれのニーズにより太陽光導入が本格化



太陽光発電協会ホームページ「発電事業普及へ向けて」より、当社で加工

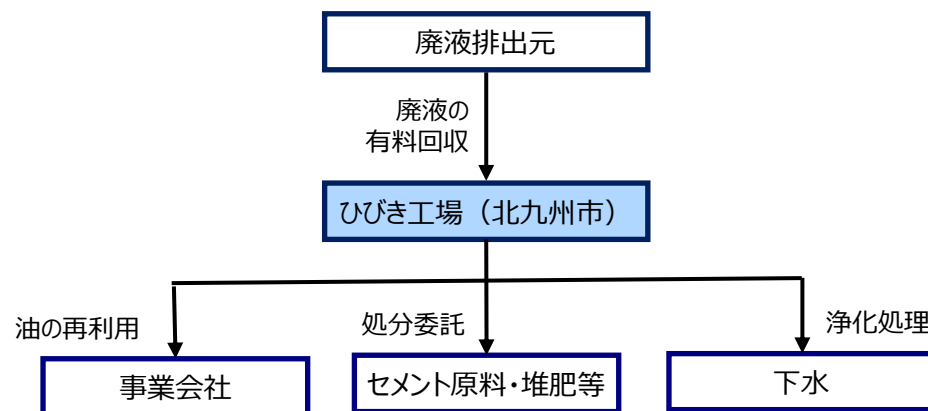
環境資源開発事業構造

資源循環型発電事業



- 全国15箇所のプラスチック資源開発工場では、メーカーなどの製造工場等から排出される廃プラスチックを、処理手数料とともに回収
- 回収した廃プラスチックは、廃プラスチック燃料に加工処理して、苫小牧発電所に供給
- 苫小牧発電所において、廃プラスチック燃料を利用して発電し、電力会社・商社に売電
- 発電所への供給以外にも、製紙メーカーへの廃プラスチック燃料の外販やマテリアル原料としての販売を実施
- 苫小牧発電所における焼却灰は、C&R(苫小牧市:埋立処理場)で最終処分を実施

廃液処理事業



【 ひびき工場 】

※汚泥・廃液を処理する施設としては、国内最大規模

- 食品・飲料工場から排出される廃液を処理手数料とともに回収
- 回収した廃液は、ひびき工場（北九州市）において、微生物処理等によって浄化
- 浄化処理後の処理水は、再利用水として再利用するか、放流基準に達していることを確認のうえ放流
- 処理工程で発生した脱水汚泥は、セメント原料や堆肥として再利用・燃料化

【免責事項】

- ・ 本資料には、将来の業績予測に関する記述が含まれています。こうした将来の業績予測に関する記述は、将来業績を保証することを意図するものではなく、一定の前提条件と経営陣の現時点で入手可能な情報による判断に基づくものです。従いまして、以下の要因をはじめとする様々な要因により、将来時点における実際の収益及び業績は、業績予測に関する記述と大きく異なる可能性があります。
- ・ 新型コロナウイルス感染状況及び政府・自治体の対応、日本の景気動向、「再生可能エネルギーの固定価格買取制度」の動向、廃棄物（特に廃プラスチック類）の取扱いに関わる動向、他の業者との競争環境、技術革新、規制環境、法律環境及びその他の当社の予測を超える様々な要因。
- ・ 本資料は当社が発行する証券への投資を勧誘することを企図した資料ではありません。本資料に含まれる情報に基づいて発生した損失・債務に関して、当社は一切の責任を負わない旨をご了承下さい。

＜注意事項＞

- ・ 数値については、単位未満を切り捨てて表示しております。
- ・ 営業利益、経常利益、当期純利益の”△”表記は、それぞれ営業損失、経常損失、当期純損失を表します。
- ・ 比率がマイナスあるいは1000%を超える値の場合「－」で表示しております。
- ・ セグメント間の内部売上高調整額を相殺した金額にて記載しております。

次世代へ快適な環境を
SANIX